

東海地震 備え早急に

東大地震研
大木助教講演

耐震対策の必要性も

清水区

静岡市清水区のNPO

法人「ヤングカレッジ」

は10日、「3・11東北地方太平洋沖地震くそのとき何がおこったのか」と題した講演会を同区の岡生涯学習交流館で開いた。東大地震研究所の大木聖子助教が東日本大震災のメカニズムや想定される東海地震への備えを

解説した。

大木助教はプレートの境界で起きた今回の地震や津波の仕組みを、映像



東日本大震災のメカニズムや東海地震への備えを解説する大木助教—静岡市清水区の岡生涯学習交流館

や写真を使い分かりやすく説明した。M（マグニチュード）9の巨大地震となった背景について、ここまでの広い震源域が未想定だったことに加え、「仮に広い震源が考慮されていてもM8・3程度と考えられただろう」と地震学者の常識を上回る「想定外」の規模だったと語った。

東南海、南海との3連動地震の可能性もある東海地震については「（3連動で）M8・7と想定